

2022 年度

立教セカンドステージ大学  
科目聴講生用





講義内容(シラバス)

- (1) 開講科目一覧表
- (2) 講義内容(シラバス)

# 2022年度 開講科目一覧（科目聴講生用）

2022.2.18現在

オンライン講義科目は、春学期金曜日・秋学期水曜日に開講します。

	科目コード	科目名	担当者	開講日程		シラバス
第1群 エイジング社会の 教養科目群	0G125	聖書と私	新井 美穂	秋学期	水3	P 1
	0G132	古典として読む旧約聖書	月本 昭男	春学期	金4	P 2
	0G112	古典和歌を読むB	加藤 睦	春学期	金3	P 3
	0G178	現代中国のメディア 	森平 崇文	春学期	金1	P 4
	0G160	現代美術に親しむ	菊池 敏直	秋学期	水1	P 5
	0G236	現代社会と民法	野澤 正充	秋学期	水3	P 6
	0G254	現代化学の成果と社会生活 	宮部 寛志	春学期	金5	P 7
	0G176	Sociology of News/Journalism	黄 盛彬	春学期	金2	P 8
第2群 コミュニティデザインと ビジネス科目群	0G239	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	松田 智生	秋学期	水5	P 9
	0G100	セカンドステージの市民生活とNPO活動	渡辺 豊博	秋学期	水4	P 10
	0G248	SDGsとビジネスロー	河村 賢治	秋学期	水1	P 11
	0G243	金融論	鉢村 健	秋学期	水4	P 12
	0G252	日本と世界の経済政策 	山縣 宏之	秋学期	水2	P 13
第3群 セカンドステージ 設計科目群	0G300	社会老年学	安藤 孝敏	春学期	金4	P 14
	0G330	最後まで自分らしく	小谷みどり	春学期	金3	P 15
	0G144	壮年期・老年期の生涯発達心理学	大野 久	春学期	金2	P 16
	0G318	会計・税務の初歩から実践まで 	坂本 雅士	秋学期	水5	P 17
	0G312	セカンドステージとテクノロジー	村上 祐子	春学期	金1	P 18

科目コード	OG125	科目名	聖書と私	科目群	第1群
担当者	新井 美穂 (アライ ミホ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・3時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	聖書を学ぶ事を中心にキリスト教に親しむ事を目標にします。聖書は私たちの姿や社会を炙り出します。この時代を生きる者として、自分を見つめ、互いを生かし合い(愛)生かされ合う生き方の源泉を聖書から考えたいと思います。				
授業の内容	本講義は講義中心の「聖書」を通しての入門講座です。少し知的に、少し心に潤いの時間です。前半は旧約聖書の中のいくつかの箇所からイスラエルの神とメシアを待望する民の関係を見つめ、イスラエル史を概観し、神と人間について考えます。後半は福音書を中心に、イエス・キリストの教えと生涯が投げかけてくる問いを探り、自分や社会を見つめ、聖書のメッセージに耳を傾けたいと思います。教会暦についても学びます。(内容や形式は必要に応じて微修正を行います)				
授業計画	<p>第1回 9/21 キリスト教に親しむ～ユダヤ教とキリスト教の関係</p> <p>第2回 9/28 聖書に親しむ～開き方から学び、創世記1章2章に学ぶ</p> <p>第3回 10/5 エジプト脱出～旧約聖書の「神の選び」について考える</p> <p>第4回 10/12 十戒について</p> <p>第5回 10/26 イエス及び福音書記者の考える十戒の理解について</p> <p>第6回 11/9 イスラエルの歴史～エジプト脱出後から王国成立まで</p> <p>第7回 11/16 イスラエルの歴史～王国分裂と預言者の働き</p> <p>第8回 11/30 イスラエルの歴史～バビロン捕囚と帰還</p> <p>第9回 12/7 イスラエルの歴史～ヘレニズム世界の支配の下で</p> <p>第10回 12/14 イエス・キリストについて～誕生物語その1</p> <p>第11回 12/21 イエス・キリストについて～誕生物語その2</p> <p>第12回 1/11 イエス・キリストについて～受難物語</p> <p>第13回 1/18 イエス・キリストについて～復活物語</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	お持ちの聖書があればそれで構いません。(必要なものはプリントします) 木田献一、2016、『古代イスラエルの預言者たち』、清水書院。(1999年版は同じ物) 池澤夏樹、2012、『ぼくたちが聖書について知りたかったこと』、小学館。				
その他(HP等)					

科目コード	OG132	科目名	古典として読む旧約聖書	科目群	第1群
担当者	月本 昭男 (ツキモト アキオ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・4時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	旧約聖書は古代オリエントの辺境に生きた弱小の民イスラエルの歴史と信仰の記録です。それがユダヤ教の聖書になり、キリスト教成立の土壌となりました。そのような旧約聖書の思想と信仰を学び、その現代的意義を考えます。				
授業の内容	大小39の書物からなる旧約聖書は多様性に富む書物です。神話があり、歴史物語があり、詩歌があり、知恵の書があります。本講義では主として歴史物語をとりあげ、そこにどのような思想と信仰が畳み込まれているのか、それが新約聖書やキリスト教へとどのように引き継がれていったのか、ときに日本の思想と比較しながら、具体的に探ってゆきましょう。				
授業計画	第1回 4/15 古代オリエントのなかのイスラエル 第2回 4/22 天地創造物語と国生み神話の比較 第3回 5/6 エデンの園の物語にみる人間観 第4回 5/13 洪水物語とその現代的意義 第5回 5/20 バベルの塔にみる文明批判 第6回 5/27 イスラエルの父祖たちの物語 第7回 6/3 出エジプトの史実性と思想的意義 第8回 6/10 モーセ律法のもつ社会史的意味 第9回 6/17 王国成立と王制をめぐる諸問題 第10回 6/24 強大国の狭間に揺れる王国時代 第11回 7/1 バビロニア捕囚のもたらしたもの 第12回 7/8 捕囚帰還と宗教共同体の成立 第13回 7/15 旧約聖書からみたキリスト教の成立				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	教科書は用いませんが、毎回、聖書は参照しますので、受講者は授業に聖書を持参してください。訳は問いません。				
上記教科書以外の参考図書	月本昭男、2022年1月、『見えない神を信ずる』、日本キリスト教団出版局、2,200円(税別)。				
その他(HP等)					

科目コード	OG112	科目名	古典和歌を読むB	科目群	第1群
担当者	加藤 睦 (カトウ ムツミ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・3時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	西行の和歌を丁寧に読み解くことを通して、彼の和歌の特質についての理解を深める。				
授業の内容	西行(1118-1190)は、平安時代後期の優れた歌人である。この授業では、『新古今和歌集』に入集した和歌を中心に、多様な主題を詠んだ和歌を読解する。初回・二回目は、西行ならびに『新古今集』の和歌について解説を行う。その後は、四季・恋・雑の順にしたがって、和歌を読み進めて行く。				
授業計画	第1回 4/15 西行と『新古今集』概説1 第2回 4/22 西行と『新古今集』概説2 第3回 5/6 四季の歌を読む1 第4回 5/13 四季の歌を読む2 第5回 5/20 四季の歌を読む3 第6回 5/27 四季の歌を読む4 第7回 6/3 恋の歌を読む1 第8回 6/10 恋の歌を読む2 第9回 6/17 恋の歌を読む3 第10回 6/24 雑の歌を読む1 第11回 7/1 雑の歌を読む2 第12回 7/8 雑の歌を読む3 第13回 7/15 雑の歌を読む4				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	教科書は使用しません。プリントを用意します。				
上記教科書以外の参考図書	授業内で適宜紹介します。				
その他(HP等)					

科目コード	OG178	科目名	現代中国のメディア	科目群	第1群
担当者	森平 崇文（モリダイラ タカフミ）				
開講日程・時限	春学期・金曜日・1時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	現在進行形の中国を理解するためには、中国に対するステレオタイプから一端離れることが求められます。21世紀以降の中国メディアを題材にして、現代中国に対するリテラシーを高めることが目標です。				
授業の内容	現在の中国の体制は1978年からスタートしましたが、その変貌が加速度的になったのは21世紀に入ってからです。この講義では、21世紀中国のメディアを考える上で重要と思える作品、人物、ワード、事件等を、映像資料を用いながら紹介することを通じ、21世紀中国社会の変容や現代中国人が直面する諸問題について解説していきます。				
授業計画	第1回 4/15 現代中国と日本のメディア 第2回 4/22 中国ドラマが描く「家」 第3回 5/6 テレビ・ドキュメンタリーの誕生：CCTV『新聞調査』 第4回 5/13 オーディション番組の隆盛：『超級女声』～『創造営2021』 第5回 5/20 抗日ドラマ・映画の世界 第6回 5/27 中国における漫オブームの背景 第7回 6/3 孔子の復活と教養番組『百家講壇』 第8回 6/10 ハリウッド映画の解禁と中国映画界 第9回 6/17 出版における発禁と検閲：章詒和と閻連科を例に 第10回 6/24 作家たちのメディア戦略：九把刀、韓寒、郭敬明 第11回 7/1 ラジオが果たす役割の変容：出稼ぎと人生相談 第12回 7/8 女性芸人たちの21世紀：趙麗蓉～李雪琴 第13回 7/15 陳丹青とアイウェイウェイ：体制外の芸術家たち				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	特にありません。授業内でレジュメを共有します。				
上記教科書以外の参考図書	授業内で紹介していきます。				
その他（HP等）	中語歴は問いません。紹介する映像資料は逐次通訳します。				

科目コード	OG160	科目名	現代美術に親しむ	科目群	第1群
担当者	菊池 敏直 (キクチ トシナオ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・1時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	① 「私にとって美術は特別なものではない」と思えるようになる ② 『見えるもの・見えないもの』を見ようと思う ③ (現代)美術に親しむ				
授業の内容	『現代美術』と呼ばれる造形表現があることとそのイメージを伝えます。自分史の中にある“美術観”と比較、考察しましょう。現代美術が成立するに至った20世紀美術の概略を解説します。解説とともにいろいろな『問い』を発します。美術とワタシと社会の関係性を考察し、私達が、見て、接して、感じる美術作品は、造形表現という問いの答えであり問いそのもの、ということに辿り着くよう自ら問うことを反復しましょう。				
授業計画	第1回 9/21 自分史と美術 第2回 9/28 鳥の声 第3回 10/5 20世紀美術略説① 第4回 10/12 鳥の声をみる 第5回 10/26 ○△□ 第6回 11/9 20世紀美術略説② 第7回 11/16 考えてカンガエナイ 第8回 11/30 水のカタチ 第9回 12/7 20世紀美術略説③ 第10回 12/14 嗜好と思考と志向① 第11回 12/21 嗜好と思考と志向② 第12回 1/11 開放と閉鎖 第13回 1/18 作品とモノと表現とワタシ  *テーマが前後することあり				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	暮沢剛巳、2009、『現代美術のキーワード100』、ちくま新書。				
その他 (HP等)					

科目コード	OG236	科目名	現代社会と民法	科目群	第1群
担当者	野澤 正充（ノザワ マサミチ）				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・3時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	この授業では、これまで法律と関わってこなかった受講生が、論理的に物事を考える力を養うとともに、日常生活に身近な民法をとおして、社会を見る力を養うことを目的とする。				
授業の内容	この授業では、「民法」という法律の成立・歴史を縦軸に、その基礎的な知識を横軸として講義するとともに、できる限り具体的な事例をとおして、法的な物事の見方や社会の見方を身に付ける。かつて法学部で民法を学んだ方はもちろん、これまでの人生において全く法律と縁がなかった受講生でも、十分に理解できる内容とするつもりである。 なお、下記の授業計画はあくまで予定であり、適宜、変更する。				
授業計画	第1回 9/21 ガイダンス・民法の源流 第2回 9/28 契約の自由とその限界 第3回 10/5 約款とその拘束力 第4回 10/12 事情変更の原則 第5回 10/26 契約交渉の不当破棄 第6回 11/9 情報の提供①—日照権・眺望権 第7回 11/16 情報の提供②—マンション値引き訴訟 第8回 11/30 契約の成立 第9回 12/7 ケア付きマンション売買契約の解除 第10回 12/14 売買と手付け 第11回 12/21 投資と民法—不動産小口化商品 第12回 1/11 公害訴訟—大気汚染 第13回 1/18 認知症と監護—JR 東海事件				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	野澤正充、2020年、『契約法—セカンドステージ債権法Ⅰ（第3版）』、日本評論社、2700円（税別）。				
上記教科書以外の参考図書	『デイリー六法（令和4年版）』、三省堂、1900円（税別）。 （ほかの六法でもよい）				
その他（HP等）					



科目コード	OG254	科目名	現代化学の成果と社会生活	科目群	第1群
担当者	宮部 寛志 (ミヤベ カンジ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・5時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	化学の歴史を辿ってその基礎に触れ、応用技術が社会に与えた恩恵と影響を知って現代にもつながる課題を考察する。化学の進展に携わった人々の人物像や人生という視点からも化学の歩みを捉え、身近な教養としての化学の理解を深める。				
授業の内容	人類は如何に現代化学の理解に到達したのか。どのような人物が化学を進展させ、彼らはどのような人生を送ったのか。主に化学の領域に焦点を絞って人類の自然観・物質観の変遷を俯瞰し、現在に至る化学の歴史を振り返る。また、応用技術の開発や利用の過程で顕在化した様々な問題を考察し、化学の展開に我々は如何に向き合うのかを考える契機とする。化学の基礎知識だけではなく、化学の進展に関わった人々の姿や社会的背景等をも踏まえ、化学の多角的な理解を志向する。				
授業計画	第1回 4/15 ガイダンス、化学の基礎 第2回 4/22 古代～中世の物質観、錬金術 第3回 5/6 化学革命、燃焼、原子論 第4回 5/13 元素の発見 (金属・気体・希ガス)、周期律 第5回 5/20 原子構造 (電子・陽子・中性子・同位体の発見) 第6回 5/27 量子化学 (化学結合・分子構造)、有機化学 第7回 6/3 工業化学 (人工染料・ナイロン) 第8回 6/10 大気を変える錬金術 (ハーバー・ボッシュ法、第1回) 第9回 6/17 大気を変える錬金術 (ハーバー・ボッシュ法、第2回) 第10回 6/24 旨味、アミノ酸分析、クロマトグラフィー 第11回 7/1 医薬品、抗生物質 (サルバルサン) 第12回 7/8 抗生物質 (サルファ剤・ペニシリン) 第13回 7/15 DDT (有機塩素系殺虫剤)、フロン (冷媒・溶剤)、まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	教科書はありません。パワーポイント画面を使用して講義を行います。				
上記教科書以外の参考図書	話題が多岐に亘りますので、特定の参考書はありません。				
その他 (HP 等)					

<b>Course number</b>	OG176	<b>Title</b>	Sociology of News/Journalism	<b>Course group</b>	I
<b>Instructor</b>	Hwang, Seongbin (黄 盛彬)				
<b>Period</b>	Spring, Friday, 2 <sup>th</sup> period	<b>Class</b>	Online		
<b>Remarks</b>					
<b>Course Objectives</b>	This course introduces key concepts and contemporary critical issues in the news/Journalism and media studies. It will allow students to engage with the principles of Journalism, sociological understandings of media production, and critical media/cultural studies issues.				
<b>Course Description</b>	It will focus on several key concepts and critical areas in the sociological and cultural study of news/Journalism and media/cultural studies, including the media industries' news-making process, history, organization, and production. The analysis of media representation is also covered, such as the issue of identity and gender. Finally, East Asia's current situation regarding the subject matter will also be introduced. Along with lectures by the instructor, students are encouraged to have their topics for a term paper and submit a critical essay based on the course readings and their analytical reading of the current issues and affairs of their interests.				
<b>Class schedule</b>	<p>Lesson 1: 4/15 Introduction: Reading News &amp; Taking Media/Culture in Class</p> <p>Lesson 2: 4/22 What is News/Journalism and Media?</p> <p>Lesson 3: 5/6 Is Media Still Powerful?</p> <p>Lesson 4: 5/13 Workshop for Finding Topic for Term Paper/Presentation</p> <p>Lesson 5: 5/20 Issues in Journalism and Media Studies: Organization and Production on the Media Industries</p> <p>Lesson 6: 5/27 Issues in Journalism and Media Studies: Gender and Sexuality</p> <p>Lesson 7: 6/3 Issues in Journalism and Media Studies: Race and Ethnicity</p> <p>Lesson 8: 6/10 Issues in Journalism and Media Studies: Globalization and Digitalization</p> <p>Lesson 9: 6/17 Guest Lecture (date may be changed)</p> <p>Lesson 10: 6/24 What is happening in East Asia?</p> <p>Lesson 11: 7/1 What is happening in East Asia?</p> <p>Lesson 12: 7/8 Presentations</p> <p>Lesson 13: 7/15 Follow-up on Final Projects and Wrap-up Session</p> <p>* Schedules may change, especially guest lectures.</p>				
<b>Evaluation</b>	Attendance and class participation including group projects and term paper.				
<b>Textbooks</b>	Course Readings will be provided in class.				
<b>Readings</b>	Schudson, Michael, 2011, <i>Sociology of News</i> , W W Norton & Co Inc. Freeman, Laurie Anne, 2000, <i>Closing the Shop: Information Cartels and Japan's Mass Media</i> , Princeton=2010 『記者クラブ—情報カルテル』 緑風出版。 Hollows Joanne, 2016, <i>Media Studies: A Complete Introduction</i> , Teach Yourself				
<b>Other Information</b>	Two languages, Japanese and English, are used in the class. The lecturer will speak in both languages, Japanese and English, and students can participate in-class activities such as in-class discussion in both languages. However, the term paper should be monolingual, which means that students have to choose their language for the term paper, either Japanese or English.				

科目コード	OG239	科目名	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	科目群	第2群
担当者	松田 智生 (マツダ トモオ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・5時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	活力ある高齢社会を示す「プラチナ社会」において、RSSCのアクティブシニアがいかに社会や多世代と共生して輝くか、大学のアカデミックな視点とビジネスの視点を交えながらアクティブシニア論を展開する。				
授業の内容	次の授業計画に沿って、アクティブシニア論の基本要素の講義と併せて、国内外の具体的且つ臨場感のある事例を紹介する。さらに受講生の同士のグループディスカッションと発表の組み合わせ、講義→討議→共有→演習の実践的な活動を展開する。毎回、前回の講義のフィードバックを行い、授業の理解度や進捗状況を把握しながら有効に進める。				
授業計画	<p>第1回 9/21 プラチナ社会総論（授業ガイダンスを含む）</p> <p>第2回 9/28 アクティブシニアと新たな市場</p> <p>第3回 10/5 アクティブシニアと新たな大学</p> <p>第4回 10/12 アクティブシニアとまちづくり</p> <p>第5回 10/26 アクティブシニアの挑戦に学ぶ</p> <p>第6回 11/9 アクティブシニアのコミュニティデビュープラン作成</p> <p>第7回 11/16 アクティブシニアのコミュニティデビュープラン発表</p> <p>第8回 11/30 海外に学ぶアクティブシニアのライフスタイル</p> <p>第9回 12/7 アクティブシニアと地方創生</p> <p>第10回 12/14 アクティブシニアと多世代交流</p> <p>第11回 12/21 アクティブシニアの大学連携型コミュニティ①</p> <p>第12回 1/11 アクティブシニアの大学連携型コミュニティ②</p> <p>第13回 1/18 研究のまとめと発表・講評</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	<p>松田智生 2017年『日本版 CCRC がわかる本』、法研、2,500円（税別）。</p> <p>松田智生 2020年『明るい逆参勤交代が日本を変える』事業構想大学院大学、1,500円（税別）。</p>				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）	<p>松田智生（三菱総合研究所） <a href="https://www.mri.co.jp/company/staff/0225.htm">https://www.mri.co.jp/company/staff/0225.htm</a></p> <p>逆参勤交代プロジェクト <a href="https://www.relation-ur.jp/">https://www.relation-ur.jp/</a></p>				

科目コード	OG100	科目名	セカンドステージの市民生活とNPO活動	科目群	第2群
担当者	渡辺 豊博 (ワタナベ トヨヒロ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限		授業方式	オンライン	
備考					
授業の目標	「今まで蓄積してきた専門的な知識を地域社会で活かしたい、新たな人的交流の場に参加したい」などさらなる発展的な市民生活を過ごしていくための多様なヒントや仲間づくり、社会貢献の場づくりなどを再発見することを目標とする。				
授業の内容	本講座では、セカンドステージにおける社会的な役割や新たな市民生活のあり方、生きがい、やりがいのある場づくりなどを再発見するためのヒントや多種多様な社会参加のケーススタディに関わる情報提供を行うとともに、日常的な市民生活の中で役立つ市民活動のあり方や心構え、NPOの基礎知識、具体的な活動を現場で進めるための実践的なノウハウ、英国や米国の先進的なNPOの手法や社会的企業、地域ビジネス創業の方法などについて学ぶ。				
授業計画	<p>第1回 9/21 講義のガイダンス、自己紹介、学びたいポイントの確認</p> <p>第2回 9/28 市民生活の現状と課題、行政の限界・破綻を考える</p> <p>第3回 10/5 南方熊楠の挑戦と市民の限界と可能性を考える</p> <p>第4回 10/12 富士山を救え・NPOパワーの実力と発展性を考える</p> <p>第5回 10/26 NPOって何?を学ぶ</p> <p>第6回 11/9 多様なNPOの実践事例を学ぶ(環境・地域づくり・人的交流)</p> <p>第7回 11/16 東日本大震災でのNPOの役割と課題を学ぶ</p> <p>第8回 11/30 グラウンドワーク三島の実践的なノウハウ・極意を学ぶ</p> <p>第9回 12/7 グラウンドワーク三島の活動事例を学ぶ①</p> <p>第10回 12/14 グラウンドワーク三島の活動事例を学ぶ②</p> <p>第11回 12/21 英国グラウンドワークのパートナーシップの手法を学ぶ</p> <p>第12回 1/11 中高年が中心となった市民活動やビジネスなどの事例紹介</p> <p>第13回 1/18 全体的な質疑応答と振り返り、講義のまとめ</p> <p>※希望者を対象にグラウンドワーク三島での体験学習有り</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	渡辺豊博、2016、『先生、NPOって儲かりますか?』、春風社、1,389円(税別)。				
上記教科書以外の参考図書	渡辺豊博、2005、『清流の街がよみがえった』、中央法規出版株式会社、2,000円(税別)。渡辺豊博、2012、『共助社会の戦士たち』、静岡新聞社、952円(税別)。渡辺豊博、2013、『失敗しないNPO』、春風社、1,500円(税別)。				
その他(HP等)	グラウンドワーク三島・ホームページ				

科目コード	OG248	科目名	SDGsとビジネスロー	科目群	第2群
担当者	河村 賢治 (カワムラ ケンジ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・1時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	国連が定めた持続可能な開発目標 (SDGs) を達成するために、ビジネスローがどのような役割を果たしているのか知ると同時に、自分自身が一市民として何ができるのか考える。				
授業の内容	SDGs を達成するためには、政府や非営利団体などだけでなく、民間企業の力を活用することが大切になります。実際に、多くの企業が事業活動と社会課題解決の両立に向けた取り組みを進めています。また、投資家も環境・社会・ガバナンス (ESG) を考慮した投資を拡大しています。この授業では、こうした企業や投資家の活動を後押しするビジネスローについて学びます (これらの動きに対して懐疑的な見解も取り上げます)。それと同時に、私たち自身が、例えば消費者・投資者・労働者/経営者などとして、何ができるのか考えたいと思います。				
授業計画	<p>第1回 9/21 SDGs と ESG の基本</p> <p>第2回 9/28 株式会社・資本市場の歴史 (東インド会社から現代そして未来)</p> <p>第3回 10/5 企業統治に関するルール・動向 (株主利益最大化原則の可否等)</p> <p>第4回 10/12 企業統治に関するルール・動向</p> <p>第5回 10/26 受講生の皆さんからの話題提供 (企業の実践例の紹介等)</p> <p>第6回 11/9 環境に関するルール・動向 (気候変動問題への対応等)</p> <p>第7回 11/16 環境に関するルール・動向</p> <p>第8回 11/30 受講生の皆さんからの話題提供</p> <p>第9回 12/7 働き方に関するルール・動向 (過労死問題への対応等)</p> <p>第10回 12/14 働き方に関するルール・動向</p> <p>第11回 12/21 受講生の皆さんからの話題提供</p> <p>第12回 1/11 投資に関するルール・動向 (SDGs・ESG と業績の関係等)</p> <p>第13回 1/18 まとめ</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	特に指定しません。				
上記教科書以外の参考図書	授業で紹介します。				
その他 (HP 等)	「受講生の皆さんからの話題提供」は、多様な関心・視点などを授業に取り入れると同時に、受け身ではない双方向の学びを実践するためのものです。				

科目コード	OG243	科目名	金融論	科目群	第2群
担当者	鉢村 健 (ハチムラ タケン)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	「金融緩和＝負債膨張」は資本主義の根幹であり人類社会に多大な影響を与えています。授業では金融経済の基礎を振り返りながら、現代社会が抱える構造問題の真因を探り、将来の課題を「自らの視点で捉え直す力の涵養」を目標とします。				
授業の内容	講義中心ですが、知識の暗記ではなく論理的に考えることに重きを置いています。現代社会は①主権国家②民主主義③グローバル化の同時成立を求めて、国際協調を続けましたが、いま「格差拡大と民主主義の後退」に直面しています。この現象は過度な「金融緩和」が導いたものであり、今後も増幅されるでしょう。授業では多様な経験を有する学生の皆さんに金融面から新たな視点を提供して、「現代社会が抱える課題の本質と将来像」をご一緒に考えたいと思います。				
授業計画	<p>第1回 9/21 オリエンテーション講義「現代社会と負債膨張」</p> <p>第2回 9/28 貨幣論(1)「銀行券と貨幣」—通貨の製造企画と発行管理</p> <p>第3回 10/5 貨幣論(2)「現金の流通構造」—還流システムと裾野産業</p> <p>第4回 10/12 貨幣論(3)「キャッシュレス」—仮想通貨と決済システム</p> <p>第5回 10/26 金融論(1)「民間金融」—銀行発達史と銀行経営の課題</p> <p>第6回 11/9 金融論(2)「中央銀行」—機能と業務内容、国際比較</p> <p>第7回 11/16 金融論(3)「金融市場」—金融政策と財政政策</p> <p>第8回 11/30 金融構造論(1)「日本経済」—少子高齢化と所得格差</p> <p>第9回 12/7 金融構造論(2)「地方経済」—中央依存と地域間格差</p> <p>第10回 12/14 金融構造論(3)「世界経済」—景気循環と保護主義</p> <p>第11回 12/21 国際金融論(1)「国際協調」—国際機関とサミット協議</p> <p>第12回 1/11 国際金融論(2)「開発援助」—途上国支援と植民地主義</p> <p>第13回 1/18 総括講義「負債膨張がもたらすマネロンと社会構造改革」</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	講義用のパワーポイント資料を配付します(教科書の指定はありません)。				
上記教科書以外の参考図書	理解を深めたい学生用に、専門書を必要に応じて紹介します(購入不要です)。				
その他(HP等)					

科目コード	OG252	科目名	日本と世界の経済政策	科目群	第2群
担当者	山縣 宏之 (ヤマガタ ヒロユキ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・2時限		授業方式	オンライン	
備考					
授業の目標	国際経済とアメリカの影響を強く受けて発展してきた現代日本の経済政策の展開を学んだうえで、世界各国・地域の経済政策、経済政策の最新の展開を踏まえ、日本におけるよりよい経済政策のあり方を考える素材と議論の場を提供する。				
授業の内容	国際経済のなかでの生き残りとしてアメリカの強い影響のもと、発展してきた現代日本の経済政策の展開とあり方を学ぶ。世界各国・地域の経済政策、経済政策が直面する最新の課題を踏まえた上で、よりよい日本の経済政策を、受講生が考えるための知見を提供する。受講生の理解と参加度を増すため、教員作成の独自教材を穴埋め方式で完成させてもらい、オンライン講義向けの画像資料も活用する。受講生自ら作成する中間レポートを元にした、受講生間の討論会も行う。				
授業計画	<p>第1回 9/21 開講ガイダンス</p> <p>第2回 9/28 日本の高度成長と経済政策</p> <p>第3回 10/5 グローバル化と日本のバブル経済</p> <p>第4回 10/12 大不況期・大不況後の経済政策と日本経済</p> <p>第5回 10/26 アベノミクスとアベノミクス後の日本経済</p> <p>第6回 11/9 受講生皆さんの中間レポート発表・討論会 その①</p> <p>第7回 11/16 アメリカ：金融危機を超えて</p> <p>第8回 11/30 EU：債務危機からコロナ危機へ</p> <p>第9回 12/7 中国：新たなる覇権国となりうるか</p> <p>第10回 12/14 グローバル化と経済政策：自由貿易か保護主義か</p> <p>第11回 12/21 米中対立・体制間対立（民主主義対権威主義）と経済政策</p> <p>第12回 1/11 ポピュリズムと経済政策：反エリート、政治動機による経済政策</p> <p>第13回 1/18 受講生皆さんの中間レポート発表・討論会 その②</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書	「穴埋め方式」の教材を、担当教員が作成して配布				
上記教科書以外の参考図書	<p>田代・萩原・金沢編、2011、『現代の経済政策（第4版）』、有斐閣。</p> <p>伊藤元重、2016、『どうなる世界経済 入門 国際経済学』、光文社新書。</p> <p>河崎・河音・藤木編、2021、『現代アメリカ政治経済入門』、ミネルヴァ書房。</p>				
その他（HP等）	<p>Blackboardに講義ページを作成し、利用予定。</p> <p>詳細は、初回ガイダンスでお知らせします。</p>				

科目コード	OG300	科目名	社会老年学	科目群	第3群
担当者	安藤 孝敏 (アンドウ タカトシ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・4時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	高齢社会とはいかなる社会であるのかを理解し、これからの自分自身の生き方と関連させて、近未来の高齢社会のあり方を考察できるよう、社会老年学の基礎的な知識を修得することがこの授業の目標である。				
授業の内容	この授業では、人口の高齢化、高齢期の健康、定年退職、高齢期の人間関係などのテーマを取り上げ、高齢社会の特徴について検討する。そして、社会と個人の高齢化を踏まえて、これからの高齢期のライフスタイルについて考えていく。授業はテキストと補助資料（映像資料を含む）を用いて講義を行い、受講者には講義や資料などに関するコメント・感想などのリアクションペーパーの提出を求める。オンライン授業の特性を活かして、意見交換する反転授業を行う。				
授業計画	<p>第1回 4/15 イントロダクション</p> <p>第2回 4/22 高齢社会を科学する：社会老年学とは？</p> <p>第3回 5/6 高齢者観：高齢期をみる目</p> <p>第4回 5/13 人口の高齢化：高齢化社会の実態</p> <p>第5回 5/20 人口高齢化のメカニズム：少子化と長寿化</p> <p>第6回 5/27 高齢社会の現状1：映像視聴</p> <p>第7回 6/3 高齢期の健康：生活機能</p> <p>第8回 6/10 高齢社会の現状2：映像視聴</p> <p>第9回 6/17 定年退職、就業意欲と職業観</p> <p>第10回 6/24 高齢社会の現状3：映像視聴</p> <p>第11回 7/1 高齢期の人間関係</p> <p>第12回 7/8 多様化する高齢期のライフスタイル</p> <p>第13回 7/15 「高齢社会対策大綱」にみる高齢社会のデザイン</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	古谷野亘・安藤孝敏編著、2008、『改訂・新社会老年学；シニアライフのゆくえ』、ワールドプランニング、2,305円（税込）。				
上記教科書以外の参考図書	内閣府編、2021、『高齢社会白書〈令和3年版〉』、日経印刷、2,420円（税込）。				
その他（HP等）	<p>総務省統計局 <a href="http://www.stat.go.jp/">http://www.stat.go.jp/</a></p> <p>内閣府共生社会政策・高齢社会対策 <a href="https://www8.cao.go.jp/kourei/index.html">https://www8.cao.go.jp/kourei/index.html</a></p>				



科目コード	OG330	科目名	最後まで自分らしく	科目群	第3群
担当者	小谷 みどり (コタニ ミドリ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・3時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	生ある者（物）の宿命である「死」を医学、民俗学、哲学、社会学、経済学など多角的に俯瞰することで、「残された時間をどう生きるか」を改めて考えるきっかけとしていただきたい。				
授業の内容	オムニバス形式で毎回異なるテーマを取り上げ、授業を進める。死の概念、終末医療、葬送など、死の現状と問題について横断的に学習する。 正解がないテーマゆえ、さまざまな考え方があることを知ったうえで、自分はどうしたいかを考えていただける工夫をしたい。				
授業計画	<p>第1回 4/15 多死社会・死を取り巻く社会の状況</p> <p>第2回 4/22 死とは何か（死の基準）</p> <p>第3回 5/6 死にまつわるタブーや因習の成立</p> <p>第4回 5/13 現代人の死生観</p> <p>第5回 5/20 自身の死生観を考える</p> <p>第6回 5/27 安楽死と尊厳死</p> <p>第7回 6/3 安楽死と尊厳死、最後まで生きるとは</p> <p>第8回 6/10 現代社会におけるお墓の問題</p> <p>第9回 6/17 お墓の歴史とゆくえ</p> <p>第10回 6/24 お葬式 宗教的、歴史的考察</p> <p>第11回 7/1 お葬式 経済的、社会的考察</p> <p>第12回 7/8 弔われない死者と無縁社会</p> <p>第13回 7/15 死後をどう託すか</p> <p>*履修者数に応じて、若干の変更の可能性あり。また休講が1回入る可能性あり。</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）					

科目コード	OG144	科目名	壮年期・老年期の生涯発達心理学	科目群	第3群
担当者	大野 久 (オオノ ヒサシ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・2時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	E. H. エリクソンの漸成発達理論、生涯発達論を基礎に、自らの育ち、人生、これからの生き方、生きる意味を再考する。さらに、家族、友人らとの人間関係のあり方を問い直す。				
授業の内容	S. フロイトは、人生で大切なこととして「愛することと働くこと（職業という閉じた意味ではなく、人生でなすべきことという意味で）」をあげた。この講義では、心理学における生涯発達論を通して、この2つの問題についての様々な考え方を紹介する。受講生が自らの人生の振り返り、これからの生き方について再考する機会としたい。取り上げるテーマは、アイデンティティ、愛すること、次世代を育てること、生きる意味等である。				
授業計画	<p>第1回 4/15 心理学における生涯発達論</p> <p>第2回 4/22 生涯発達の中のアイデンティティ</p> <p>第3回 5/6 アイデンティティのバリエーション</p> <p>第4回 5/13 アイデンティティと生きる意味</p> <p>第5回 5/20 to have と to be : お金では買えない生きる意味</p> <p>第6回 5/27 愛すること : 愛とは何か</p> <p>第7回 6/3 愛すること : 親密性、大人としての人の愛し方</p> <p>第8回 6/10 次世代を育てること : 世代継承性、ケア</p> <p>第9回 6/17 人生を振りかえる : 総合性</p> <p>第10回 6/24 人格の基礎 : 信頼感</p> <p>第11回 7/1 自立すること : 自律性</p> <p>第12回 7/8 個性を開花させること : 主導性</p> <p>第13回 7/15 死後、人はどうなるかについての思想から見た生きる意味</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	大野久ほか、2010、『エピソードでつかむ青年心理学』、ミネルヴァ書房、2,860円（税込）。E. H. エリクソン、2011、『アイデンティティとライフサイクル』、誠信書房、3,850円（税込）。				
その他（HP等）					

科目コード	OG318	科目名	会計・税務の初歩から実践まで	科目群	第3群
担当者	坂本 雅士 (サカモト マサシ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・5時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	会計・税務の最先端のトピックをわかりやすく、楽しく学びます。また、株式の模擬売買を通じて、株価変動の背景になっている経済・社会の動きに目を向け、知的好奇心を喚起させます。				
授業の内容	会計・税務の世界は不思議な玉手箱。儲かっているのにほとんど税金を払っていない大企業、ルールがいくつもある企業会計（普通、ルールは一つですよ）。まずは今、世界で起きているさまざまな事象を紹介します。次いで、株式の仮想売買を通じて実経済（現実の社会、経済、会社のしくみ）を学びます。仮想所持金1,000万円を元手に、模擬売買の始まりです。「今から始めて自分でも出来るの?」、大丈夫です！一緒に一歩踏み出してみましよう。				
授業計画	第1回 9/21 ガイダンス 第2回 9/28 会計の不思議な話① ~6つもある会計ルール~ 第3回 10/5 会計の不思議な話② ~適用企業0社の会計ルールって?~ 第4回 10/12 税金の不思議な話① ~たくさんある!変な税金~ 第5回 10/26 税金の不思議な話② ~莫大な儲けでも税金はゼロ~ 第6回 11/9 株式の基本的知識 第7回 11/16 四季報の読み方 第8回 11/30 チャートの読み方 第9回 12/7 株価に影響を及ぼすその他の材料 (IRとは何か) 第10回 12/14 実践編 第11回 12/21 有価証券の税金 第12回 1/11 損益通算の応用編 第13回 1/18 総まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	なし。講義に必要な資料・レジュメ等は配布します。				
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)	立教大学坂本ゼミナール twitter : <a href="https://twitter.com/sakmotoseminar">https://twitter.com/sakmotoseminar</a>				

科目コード	OG312	科目名	セカンドステージとテクノロジー	科目群	第3群
担当者	村上 祐子 (ムラカミ ユウコ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・1時限	授業方式	オンライン		
備考					
授業の目標	人工知能などの先端技術を導入して激変する社会の現状を把握し、今後の変化に備える。科学技術の社会受容史を踏まえつつ、加速する社会変化への過去の適応可能性を検討する。				
授業の内容	テクノロジーは私たちの生活をこれまでも変えてきました。これからはなおさら変化は激しくなることが予想されます。また、科学技術によって自然を制御しようとしてきた人間の活動が環境そのものを変化させてきたことから、これまではなかった災害への対処も必要になります。科学技術の哲学と科学技術社会論の基礎の講義を4回行った後、とくに人工知能を取りあげさまざまな社会課題を概観しながら、参加者とディスカッションを進めます。				
授業計画	<p>第1回 4/15 ガイダンスとイントロダクション</p> <p>第2回 4/22 科学と技術の哲学1：科学と技術はどのような関係か</p> <p>第3回 5/6 科学と技術の哲学2：科学的であること、科学の倫理</p> <p>第4回 5/13 科学技術社会論1：科学と社会はどのような関係にあるか</p> <p>第5回 5/20 科学技術社会論2：科学技術の社会史</p> <p>第6回 5/27 人工知能の歴史と現在</p> <p>第7回 6/3 人工知能と社会1：モノのインターネット</p> <p>第8回 6/10 人工知能と社会2：画像認識</p> <p>第9回 6/17 人工知能と社会3：支援技術・介護技術</p> <p>第10回 6/24 人工知能と社会4：科学技術への応用が社会にもたらすもの</p> <p>第11回 7/1 人工知能と社会5：教育と労働</p> <p>第12回 7/8 人工知能と社会6：社会的意思決定とテクノロジー</p> <p>第13回 7/15 まとめ</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)	あらかじめZoomの操作を練習してください。配布資料は電子ファイルとしてZoomのチャット及びBlackboardから送付します。				